

事 項	リンゴばら色かび病の診断と防除対策		
ね ら い	有袋栽培のりんご果実のがくあ部に特異的に発生する黒色～黒褐色の小斑点を <i>Trichothecium roseum</i> による「ばら色かび病」と同定したので、病害診断と防除の参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 病原菌 <i>Trichothecium roseum</i> (Persoon : Fries) Link</p> <p>2 診断のポイント</p> <p>(1) 発生部位は果実のがくあ部にほぼ限られる。</p> <p>(2) 黒色～黒褐色、大きさ1～5mm、楕円形～不整形の小斑点が、数個から十数個まとまって生じる(図1)。</p> <p>(3) 小斑点には時として白色の粉状物を生じる(図2)。</p> <p>(4) 果肉部はわずかに褐変・コルク化するが、腐敗はみられない。</p> <p>3 発生事態</p> <p>(1) 津軽地方で広域的に発生している(表1)。</p> <p>(2) 被害は有袋栽培の果実に限られている。</p> <p>(3) 発病果率は1%以下であり、実害は小さい(表2)。 同様な被害は平成10年、平成11年にも認められた。</p> <p>(4) 被害の確認された品種は「つがる」、「ジョナゴールド」、「世界一」、「陸奥」及び「ふじ」である。</p> <p>4 防除対策</p> <p>(1) 6月下旬以降に散布する斑点落葉病防除剤(基準薬剤)で同時防除できる(表3)。</p> <p>(2) 感染時期は袋掛け前と推察されるので、例年発生のみられる園地では袋掛け前の散布間隔をあげすぎない。</p> <p>(3) 被害果率の高いところでは無袋栽培にする。</p>		
期待される効果	被害診断の適正化と被害の軽減が図られる。		
利用上の注意事項	なし		
担 当	青森県りんご試験場 病虫肥料部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	日本植物病理学会会報 64(6):610. 1988.12		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 ばら色かび病の被害果（陸奥）

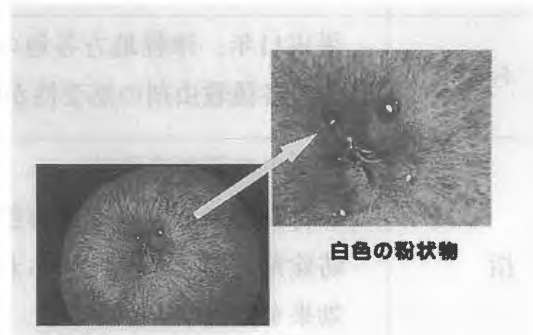


写真2 病斑上の白色粉状物（ふじ）

表1 黒色～黒褐色の小斑点から分離される糸状菌 (平成9年 青森りんご試)

採取地点	品 種	調 査 果 数	分離に 供した 病斑数	分離菌の種類と数					
				Tr	Al	Fu	Pe	Ni	Ba
金 木 町	つ が る	2	6	0	0	0	2	0	4
弘前市A	ふ じ	15	44	32	3	0	1	6	3
弘前市B	陸 奥	2	7	3	1	0	0	0	1
弘前市C	ジョナゴールド	1	5	3	0	0	0	2	2
黒 石 石	陸 奥	4	22	19	2	1	1	8	0
浪 岡 町	ふ じ	6	15	9	3	0	0	6	0
合 計		30	99	66	9	1	4	22	10
比 率		—	—	58.9	8.0	1.0	3.6	19.6	8.9

注) Tr : *Trichothecium roseum*, Al : *Alternaria* sp.、Fu : *Fusarium* sp.  
Pe : *Penicillium* sp, NI : 不明菌、Ba : 細菌

表2 ばら色かび病の発生実態 (平成10年 青森りんご試)

品 種 区分	園地数	発病果率別の園地数				
		0	1≥	5≥	6≤	
ふ じ	有袋	14	13	1	0	0
	無袋	11	11	0	0	0
ジョナ ゴールド	有袋	11	10	1	0	0
	無袋	2	2	0	0	0
陸 奥	有袋	4	3	1	0	0
	無袋	1	1	0	0	0
その他	無袋	12	12	0	0	0
合 計	有袋	29	26	3	0	0
比 率		100	89.7	10.3	0	0
合 計	無袋	26	26	0	0	0
比 率		100	100	0	0	0

表3 ばら色かび病に対する各種薬剤の防除効果 (平成10年 青森りんご試)

薬 剤 名	倍 数	発病果率	防 除 価
ル ビ ゲ ン	3,000	80	0
ス コ ア	3,000	52	7
パルノックス	600	16	71
ジマンダイセン	600	28	50
キノンドー(80)	1,200	8	86
アントラコール	500	36	36
プ ラ ウ	600	12	79
アリエッティC	800	8	86
ベ フ ラ ン	1,500	0	100
トップジンM	1,500	48	14
オーソサイド	800	8	86
無 散 布	—	56	—

注) 付傷後の果実に所定濃度の薬剤を散布した後、付傷部に病原菌接種した。